

非稼働病床についての今後の計画

稲沢市民病院

1 これまでの経緯

現病院は、平成26年11月に、それまでの許可病床392床から72床を削減し、急性期病床320床で新築移転しました。しかし当初は医師不足、看護師不足から2病棟（4階南、北）を休床した228床で開院し、医師や看護師を確保し、平成28年度と平成31年度にそれぞれ1病棟を開床する計画でした。

平成28年3月には1病棟46床を地域包括ケア病棟に機能変更し、同年4月には当初の予定通り1病棟46床（4階南）を急性期病棟として開床しましたが、残り1病棟46床（4階北）については、現在に至るまで非稼働の状況です。

その後、平成30年12月には当初HCUとして計画した1病棟10床の施設基準を取得、令和元年10月には1病棟39床（3階北）を一時的に休床としました。また、翌令和2年2月に稲沢市の在宅医療を支えるため、訪問看護ステーションを院内1階に開設しています。

そうした中、今回の新型コロナウイルス感染症が発生し、公立病院の使命としてこれに対応するため、昨年3月から急性期1病棟を感染症専用病棟として12床の運用で対応してきました。また同年6月にはHCUを10床から17床に拡大しています。さらに昨年11月からの急速な感染拡大に対し、感染症専用病棟を4床増床する16床運用とするため、看護師集約により急性期の1病棟（5階北）を臨時的に休床しているのが現状です。

2 非稼働病床について当院の考え

現在、3病棟を休床させていますが、前述のとおり新型コロナウイルス感染症が少し落ち着いた時点で、まず臨時的に休床している5階北病棟を急性期病棟として稼働させます。

また一時的に休床している3階北病棟は、今後増加する高齢者の外傷に対応するため、当院の強みである脊髄・脊椎を専門とする脳神経外科、及び医師が増員された整形外科を中心として「高齢者外傷センター」を設立する準備を進めています。これは当初、令和3年4月の開設を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の終息がなかなか見通せない状況下ですので、若干の修正が必要になると考えています。

開院以来休床中の4階北病棟については、平成29年度に作成した新改革プランで稼働に向けた課題を示しながら、その機能に関しては、圏域全体の中で当院の担う役割を見極めていくとしています。行政当局と検討しながらになりますが、地域医療構想の議論の中で、今後当医療圏において特定の回復期機能の病床の不足が明らかになった場合には、回復期機能で稼働していきたいという考えに、今のところ変更ありません。

	計画時	H26.11～	H28.4～	H30.12～	R元.10～	R2.3～	R2.6～
病床数	320床	228床	274床	274床	235床	235床	242床
病棟数	8棟	6棟	7棟	7棟	6棟	6棟	6棟
一般急性期	7棟	6棟	6棟	5棟	4棟	4棟	4棟
HCU	1棟			1棟	1棟	1棟	1棟
地域包括ケア			1棟	1棟	1棟	1棟	1棟
6階							
北病棟	41床	41床	41床	41床	41床	41床	41床
南病棟	46床	46床	46床	46床	46床	46床	46床
5階							
北病棟	46床	46床	46床	46床	46床	46床	46床
南病棟	46床	46床	包括 46床	包括 46床	包括 46床	包括 46床	包括 46床
4階							
北病棟	46床						
南病棟	46床		46床	46床	46床	感染 46床	感染 46床
3階							
北病棟	39床	39床	39床	39床			
南病棟	10床	一般 10床	一般 10床	HCU 10床	HCU 10床	HCU 10床	HCU 17床
計	320床	228床	274床	274床	235床	235床	242床